

[連載] 第5回

清々しき人々

月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

北方の土地と人々を熱愛した旅人・

松浦 武四郎



松浦武四郎 (1818-1888)

蝦夷地に切迫する危機

北海道のニセコは雪質が極上のため、最近では国内だけでなく海外からもスキーをするために多数の人々が到来する人気の場所です。そのなかでも比羅夫は数多くのホテルが林立し、

とりわけ蝦夷地周辺にはロシアの軍艦が出没し、ときには上陸する事件も発生します。そこで徳川幕府は蝦夷地を松前藩領から直轄する体制をとります。一気に緊張した時代になったのです。

西方から北方に転換した関心

これは伝説にすぎないという意見もありますが、それ以後、大和朝廷の蝦夷地への関心は希薄になり、室町時代になって松前藩が現在の松前町を拠点として支配するまで、アイヌ民族が生活しているだけでした。北方の土地は寒冷で、当時の経済基盤である米作ができないため、松前藩の支配も渡島半島の沿岸だけで、アイヌ民族と魚介や毛皮の交易をして経済を維持して

そのような時期に蝦夷地に関心をもつたのが、今回紹介する松浦武四郎です。武四郎は一八一八年に伊勢国須川村(三重県松阪市)の郷士松浦圭介の四男として誕生します。一三歳のとき儒者平松楽舟の私塾に入門しますが、一六歳のとき師匠から叱責されることもあり、一人で勉強のため江戸に旅立ちます。しかし数ヶ月後に心配した父親に呼戻され、一旦は帰郷しますが、諸国を歴訪したいという欲求から、翌年には西方に出発します。

しかし一八世紀になると、蝦夷地を放置しておくわけにはいかない事情が発生します。欧米諸国が自身の視点からは未開の土地を自国の領土にするため、日本列島周辺にも軍艦や商船が出没するようになったのです。



図1 松浦武四郎生家

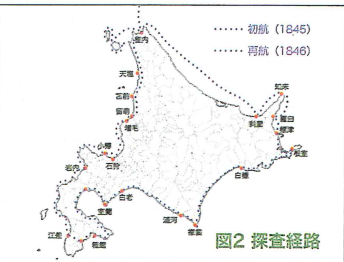


図2 探査経路



図3 松浦武四郎銅像(北海道小樽市)

京都、大坂から紀州、大和、能登、飛騨などを經由し、四国、中国を巡回して九州に到達し、一〇年間の漂泊生活をします。これ以後も生涯の旅人と表現できるほど旅行をしますが、それは生誕の場所に関係があります。武四郎の生家は現在も伊勢街道の沿道に保存されていますが、そこは伊勢神宮参詣の人々が行き交う通路でした(図一)。とりわけ武四郎が一三歳の一八三〇年に「文政のお蔭参り」が発生し、全国から約四三〇万人が参詣しています。

心な武四郎は北方へ直行するのではなく、大坂から北陸を經由して鶴岡、酒田、秋田など各地に立寄ってから、津軽半島の付根にある鯉ヶ沢に到着し、蝦夷地の玄関である松前へ船出ししようとします。しかし、渡航は容易ではありませんでした。徳川幕府の鎖国政策を批判した渡辺崋山や高野長英などが投獄された蛸社社の獄事件が一八三九年に発生しますが、投獄されていた高野長英が一八四四年に牢屋の火災を好機として脱獄したため、各地で厳格な検問があり、渡航は簡単ではなくなったのです。そこで津軽半島や下北半島を旅行し、翌年は仙台を經由して江戸へ一旦舞戻り、諸々の準備をして、四月に再度、鯉ヶ沢に到着します。

自前で三度の探険を遂行

そして、ついに一八四五年四月に商人に扮装して江差へ回航する小舟で念願の蝦夷地に到達することに成功します。このときの旅行は一八五〇年に「初航蝦夷日誌」として発表され、それが、江差から徒歩で箱館、室蘭、白老、浦河、襟裳、白糠、根室と移動し、根室からは小舟で標津まで到達しています(図二)。その先端には「勢州一志標雲出松浦武四郎」と墨書した標柱

望星 2月号 1月14日発売 定価600円(本体556円) 特集 日々是、句読点。『テン・マル君の静かな主張』

時事問題を正しく学べる一冊! 海の安全保障の授業 高校生にも読んでほしい 南シナ海の大問題



図4 蝦夷漫画 (松浦武四郎)

を建立したと記録されています。松浦武四郎は身長一五〇センチメートルほどの短躯ですが(図3)、異常というほどの健脚の持主で、記録を信用すれば、一日に四〇キロメートル以上を移動している場合もありました。もう一点の特徴は旅行での見聞を詳細に記録していること

で、生涯に二〇〇篇以上の旅行日誌を刊行しています。それらは文字とともに風景や地図の写生でも記録されており、明治時代になり開拓が進展する以前の蝦夷地の貴重な資料となっています(図4)。

最初の探査を終了した武四郎は帰路に水戸に立寄ってから江戸に帰還します。水戸の二代藩主徳川光圀(水戸黄門)は国防の観点から北方に関心をもち、すでに一八世紀後半に大型船「快風丸」を建造して蝦夷地の探査までしていました。その影響で、武四郎が水戸を訪れた時期の七代藩主徳川斉昭(水戸烈公)も蝦夷地開拓計画を構想するほど熱心であったため、水戸藩関係者に最新の情報を提供するために立寄ったと想像されます。

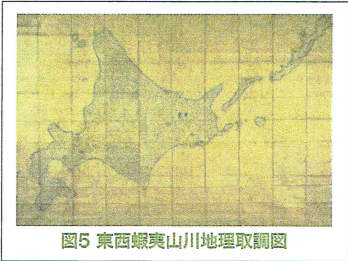


図5 東西蝦夷山川地取調図

一度の探査で満足できるわけではなく、翌年の一八四六年に江戸を出発し、再度、鯉ヶ沢から松前に渡航し、今度は松前藩の医師が樺太に赴任する一隊に従者として同行します。一行は日

し、一八五五年に転機が到来します。一八五三年にペリリ艦隊が浦賀に来航したことに切迫した危機を感じた徳川幕府は、一旦は松前藩に返却していた蝦夷地を直轄に変更し、箱館奉行を配置します。その奉行となった向山源太夫が武四郎の知己であったため、箱館奉行の一員として蝦夷御用御雇に就任します。これまで個人の隠密行動としての探査が公的な活動にな



図6 北海道の地名

つたのです。失意の五年から一気に得意の状態になりました。赤煉瓦造の北海道庁日本庁舎の内部に北海道立文書館があり、武四郎はアイヌの人間を案内としてオホーツク沿岸を一人で旅行して知床に到達し、前回は加算すると蝦夷地一周を達成します(図2)。

さらに一八四九年には江戸の豪商の帆船に便乗し、国後と択捉の両島に渡航し、ついに北方のすべてを旅行した蝦夷について、正義の感覚に正直な武四郎は、探険の過程で目撃した役人の類廃や風俗の紊乱、さらにはアイヌ民族への不当な処遇などを摘発したため、蝦夷地を所管する松前藩が刺客を派遣するなど身辺の危機が切迫し、以後五年、江戸の水戸屋敷に蟄居するような事態になりました。

また、アイヌ民族は文字を発明しなかったため、地名なども伝承で継承されてきましたが、この地図と二巻の「東西蝦夷山川地取調記行」により、蝦夷地の地名の多数が現在にまで継承されてきました。数例を紹介すると、札幌はアイヌの言葉で「サツテホロ(乾燥した河川)」、知床は「シリエトコ(地面の先端)」、稚内は「ヤムワツカナイ(冷涼な飲用河川)」を語源としています(図6)。武四郎は一八五八年の六度目を最後に蝦夷地探査を終了します。



図7 北海道命名之地 (北海道首威子府村)

一〇年後の明治二年八月に武四郎は明治政府の開拓判官に任命されます。ここで武四郎は重要な仕事をします。第一は北海道という名前を提案したこと、一八五七年に天塩川を小舟で航行し、首威子府付近で野営

をしたとき、地元のアイヌの古老が武四郎に「カイナイ」と呼ばれます。意味は「カイ」が土地に誕生した人間、「ナイ」は敬称のことでした。そこで政府に「北加伊道」という名前を提案し、それが北海道となったのです(図7)。

第二は北海道の行政区分を策定しました。面積が広大であるため、全体を国郡に分割して統治しましたが、この境界を設定し、アイヌの地名を参考に一一の国名と八六の郡名を提言したのも武四郎で、それを検討した地図が現存しています。第三に札幌を道都の場所として推薦しています。すでに一八五七年の探険のときに一帯を通過し、石狩川の河口を大坂に、その上流の山麓に位置する札幌を京都に見立て、ここを道都にすることを提言しています。



つぎお よしお 1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授などを経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしなが、知床半島、羊蹄山麓、釧路湖、白馬山麓、富山清流、瀬戸内海などを中心に、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組み。主要著書に「日本 百年の転換戦略」(講談社)、「縮小文明の展望」(東京大学出版会)、「地球共生」(講談社)、「地球の救い方」(水の話) (遊行社)、「1000年先を読む」(毛布ジリ研究所)「先住民族の歌謡」(遊行社)、「誰も言わなかった!本当は恐いビッグデータとサイバー戦争のカラクリ」(アスキー)、「日本が世界地図から消滅しないための戦略」(致知出版社)など。最新刊は「航海物語」(遊行社)。

松尾芭蕉、本居宣長とともに松浦武四郎は三重の三大偉人とされている。多数の三人々に周知されている前者二人と比較すると、その偉業もかわららず、松浦武四郎の名前は一般に浸透しているとはいえない。それは名譽などに恬淡とした性格である一方、先住民族を擁護する徳川時代の官吏や商人、明治政府の政治に抵抗したことが影響しているのかもしれない。しかし、自身の信念に忠実であった清々しい人生は多数の人々に感銘をもたらし、

月刊新聞「MORGEN」購読のご案内
MORGENは、先生と生徒が共有する、読書を柱とした、人間の生き方を考える新聞です。生徒会担当教諭、図書館担当教諭を通して生徒に配布しています。読書や社会情報を通し、子どもたちの視野を広げ、自ら社会の一員である自覚と、ものごとを客観的に見、聞き、考える目と心育てることを目的としています。
中学・高校の授業など、教育現場でも活用されています
購読費(年間購読)
324円×11回(年間11回発行 7・8月は合併号) → 3,564円(税込送料込)
★購読費を県費でお支払いいただいている学校さんもあります。県への依頼送付書などはこちらでご用意できますので、ぜひご相談下さい。★教育機関には1部料金で複数の送付ができます。お気軽にご相談下さい。★年度途中での申し込みも可能です。

優しさで 勇気の 育てかた
夜回り先生21の生きる力
水谷修
夜回り先生 待望の最新刊!
生きていてくれてありがとう
「この本を開けば、誰か明日が、今すぐ、あなたにできる一番大切なことを書き残しました。」
日本各地で大胆な改革を遂げ、多数の志願者を集めている学校がある。そのなかの19校をピックアップし、それぞれの試行錯誤の歴史を語り、さらなる高みを目指す。これからの学校運営の姿を描く。
ネクスト私学
私立中・高等学校編
高橋 哲夫 監修 近藤隆己 編
この本には、各学校の子どもたちへの思いが詰まっています。学校運営にかかわる人、子どもへの学校教育に悩む保護者に、ぜひ読んでもらいたい一冊です。
森上展安(株式会社森上教育研究所所長)
A5判並製 394頁 本体価格 1,500円(税別)
〒615-0026 京都市右京区西院北矢掛町7
TEL 075(312)0788 見洋書房
FAX 075(312)7447 http://kooyoshobo.co.jp